

景況調査

平成26年7月～9月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

(平成26年7月～9月期)

平成26年7月～9月期の調査結果では、業況、売上高、採算（経常利益）、資金繰りの主要4項目全てでわずかではあるが改善した。

〈業況〉

業況DIは▲20.3と前回調査に比べて2.8ポイント改善した。業種別では、小売り▲42.1、製造▲9.1、建設9.1、サービス▲23.5、卸売り▲16.7であり、建設業以外の業種でマイナスの数値となった。

10月～12月期見通しでは、全体で▲20.0とほんの僅かに数値が上向いている。

〈売上高〉

売上高DIは▲21.5で前回調査と比べると2.7ポイント改善した。業種別では小売り▲57.9、製造18.2、建設25.0、サービス▲35.3、卸売り▲33.3で製造業と建設業はプラス数値であったものの、その他の業種はマイナ

スの数値であった。10月～12月期見通しは全体で▲23.1で7月～9月期実績よりも数値が低下している。

〈採算（経常利益）〉

採算（経常利益）DIは▲26.2となった。業種別では、小売り▲36.8、製造▲9.1、建設0.0、サービス▲47.1、卸売り▲16.7であり、建設業以外はマイナスの数値であった。

10月～12月期見通しは全体で▲27.0と今回調査より低い数値となっている。

〈資金繰り〉

資金繰りDIは▲10.3と前回調査に比べて僅かに低い数値となった。業種別では、小売り▲16.7、製造▲11.1、建設0.0、サービス▲14.3、卸売りは0.0となった。

10月～12月期見通しでは、全体で▲12.5と今回調査よりも低い数値となっている。

〈その他の意見〉

- ・消費税の10%への増税反対。
- ・中心市街地交流駐車場を2時間無料にして欲しい。

